



東京都高等学校数学教育研究会
 事務局 都立田園調布高等学校
 事務局長 吉 田 亘
 発行所 都立昭和高等学校内
 編集発行人 萩 原 聡
 都数研HP <http://tosuiken.jp/>

平成 26 年度総会

平成 26 年度の総会が、去る 5 月 24 日(土)13:30 から、都立青山高等学校の 5 階ホールにて開催された。

開式の辞・会長あいさつに始まり、議事の流れは下記の通りであった。

- 1 平成 25 年度事業報告
- 2 平成 25 年度決算および監査報告
- 3 平成 26 年度 役員選出(顧問参与の承認を含む)
平成 26 年度 会長あいさつ
- 4 平成 26 年度事業計画
- 5 平成 26 年度予算
- 6 平成 26 年度役員・理事

定 通 部 長 川澄 秀一(第三商高・定副校長)
 編 集 部 長 萩原 聡(昭和 high・校長)
 編集副部長 加藤 竜吾(東村山高・副校長)
 水本 香(翔陽高・副校長)
 監 査 坂本 憲二(駒場高・校長)
 宮下 義弘(大泉桜高・校長)

カリキュラム特別委員会
 委 員 長 竹村 恭一(板橋有徳高・校長)
 連携研修特別委員会
 委 員 長 宮下 義弘(大泉桜高・校長)

議事は全て承認された。主な役員は以下のとおり。

会 長 下條 隆史(立川高・校長)
 副 会 長 吉田 亘(田園調布高・校長)
 北原都美子(明星中高・校長)
 事務局 長 吉田 亘(田園調布高・校長)
 研究部 長 真保 俊哉(神代高・校長)
 研究副部長 柴田 誠(大泉中高・校長)
 梅原 章司(清瀬高・校長)

上記の総会終了後には 14:00 から定通分科会と大学入試分科会による分科会発表を行った。

最後に、教育庁指導部高等学校教育指導課 小泉博紀指導主事から『東京都では、英語教育だけでなく、理数教育に力を入れている。学力スタンダード(学び直し)等において他教科を先導すると期待している。都数研を通して情報発信をしていただきたい』と講評をいただいた。

文責 編集部 林 恵美子(三鷹高)

ごあいさつ

会長 下條隆史(立川高・校長)



会長として、2 年目となりました。この 1 年間、会員皆様の様々なご支援とご協力、誠にありがとうございました。

現在、都数研の会員は、国立・私立・都立の高校の先生方が中心ですが、中学校の先生、大学関係者、教科書並び企業関係者の方も合わせると 150 名を超えています。

思いおこせば数年前、会員数が少なかった頃からすると、都数研の活動に元気が復活してきた感があります。これも、会員皆様の努力の賜物だと感謝しています。

また、ウェブページがリニューアルし、掲載されている情報も格段に充実してきました。5 つの分科会での様々な研究に関する情報発信も増加してきています。特に、会員専用のページには、研究集録も掲載され、研究部、各分科会で行う案内なども充実してきました。

今年度の総会では、予算案が承認されましたが、昨年度と異なる点は主に、以下の 3 点です。

①研究活動費増額

各分科会の活動費を増額いたしました。各分科会および編集部に 3 万円(昨年度 1 万円)といたしました。

②大会参加援助費増額

全国算数・数学教育研究大会や関東都県算数・数学教育研究大会などの参加にあたり、都数研からこれらの大会の発表、司会や助言者などを依頼しています。これらの参加者に 1 万円(昨年度参加費用のみ)を支給することにいたしました。

③70 周年式典事業基金(新規)

平成 28 年には都数研は 70 周年を迎えます。式典準備金及び式典費用として、20 万円を基金といたしました。

さて、日数教の 100 周年事業が平成 30 年に東京で開催することになっています。4 年後のことですが、都数研も主催団体として関わることになりました。会員の皆様のご協力が必要となりますので、よろしく願いいたします。

研究実践発表会報告

5月24日(土)、都数研総会後に行われた2分科会の教育実践発表会について報告する。

定通分科会

発表者：都立江北高(定時制) 松村正博 教諭

1 定通分科会の紹介

定通分科会は、主に定時制・通信制高校の教員により構成されている。定時制の教員は学校に1人だけの配置であることも多く、全体的に数も少なく相談できる人がなかなかいない現状である。そのため、同じ悩みを抱える教員のためにも、定通分科会は、月例会を行い、主に情報交換や教材の共有、そして授業実践の発表(研究授業)も行っている。

2 研究内容の紹介

昨年度の授業実践発表では、数学Ⅰの内容である「データの分析」を生徒の身近な話題であるアルバイトの時給を題材として行った。実際にA社とB社の2冊のアルバイト情報誌を見比べ、最頻値・中央値などの観点で生徒たちにどちらの方が良いかを協議させた。生徒が出した結論は以下の通りである。

①2冊の時給の平均は同じである。

②最頻値を求めて分析に使えないか。

上記2点はすぐに気付くことができたが、中央値に関しては気付くことができなかったため、教員が誘導した。

定時制の生徒の現状として、四則計算は8割の生徒ができるが、小数・分数の正答率は4割に届かないという現状である。また、正負の数にいたっては7割程度の正答率だという。このように理解力に差があるため、グループ単位になってお互いに教え合うなどの工夫を心掛けている。このような教え合いは質問も気軽にしやすいようで、活発に議論されるとのことである。また、生徒自身の苦手意識が非常に強いため、その意識をどのように取り除くかも課題となっている。

発表後の質疑応答では、「2つの平均値が同じ」というイメージをより強く持たせるため、色々なパターンの棒グラフを示して平均の概念をつかみやすくしても良いのでは、との意見が挙がった。具体的には、

①正規分布の形のグラフ

②左右のみの偏りのグラフ

③左右に極端な偏り、中央ほど少ない形のグラフ

④階段状のグラフ

一言で「2つの平均値が同じ」と言っても、上記のように様々な散らばりが考えられる。これを時給で考えると、平均値だけでA社とB社のどちらの方が良いかを結論付けることはできないことに気付く。(もちろん募集の条件にもよるが)

このように、数学に対して苦手意識をもっている生徒に対しては身近な物事に置き換えて具体的に考えさせるとより有効的である。

大学入試分科会

発表者：都立北豊島工業(定時制) 向井崇人 教諭

1 大学入試分科会の紹介

大学入試分科会では、入試問題の見方や考え方について研究協議を重ね、問題に対する問題分析力・解法力・教材構成力を高める活動を進めている。具体的な活動としては、毎月1回定例会を開き、関東近辺の大学を中心に各自が分担した大学の入試問題の検討結果を報告している。

入試問題には自分で考えることができる学生が欲しいという大学側からのメッセージが込められている。入試問題をヒントに授業における教材作成や指導法についての議論を進め、実践に活かしている。

2 研究題材の紹介

①数列の周期性(2014東京大学5)

・フィボナッチ数列

②ガロア理論(2012京都大学4)

・ユークリッドの互除法

③コラッツ予想(2011センター試験数学ⅡB 6)

④abc予想(入試問題と時事問題)

・フェルマーの最終定理

3 大学入試分科会で話題になったこと

①境界線を含まない領域の積分

②複素数の和の定義

③合同式はどこまで使ってよいか

4 数学を通して生徒に身につけてほしい力

【短期的目標】

①計算力をつける。

②数学理論の背景を知る。

【中期目標】

①わからないことを繰り返して、考えることに慣れる。

②数学の問題が解けるようになる。

【長期的目標】

①わからないことに興味をもつ技術を身につける。

②わからないことを理解するやり方を身につける。

「数学」は根拠を辿って自分で考えようとする癖をつけ、物事を自分で考え、自分なりの分析を加えることができるようになる学問である。

5 発表者より

都数研へ入会して、私は多くの見方を得ることができた。多くの大学入試問題に触れて、検討協議することで、新たな数学の視点も得ることができたことは私にとって大きな成果であった。

文責 編集部 林 恵美子(三鷹高)

第 82 回授業研究協議会報告

東京都高等学校数学教育研究会第 82 回授業研究兼平成 26 年度東京都教職員研修センター研修「高等学校数学に関する授業研究と講演会(研修番号 7051)」が、平成 26 年 6 月 12 日(木) 13:30 から、都立青山高等学校にて行われた。

1 挨拶

会長 下條 隆史(立川高・長)

2 教育委員会挨拶

教職員研修センター研修部専門教育向上課
指導主事 岡田 光章

3 会場校挨拶

都立青山高等学校長 小山 利一

4 授業研究

主 題 「ICT を活用した授業の工夫」
授業者 都立東村山高等学校 鮫島 央 主任教諭

昨年度の授業をビデオで撮影したものを使用した授業研究と協議会は、都数研としては初の試みであった。適宜、授業者による解説を交えながらの映像見学による授業研究となった。

○授業見学(DVD による視聴)

科目名：数学 I
単元名：第 2 章 2 次関数 第 1 節 2 次関数とグラフ

映像で見学したのは、2 次関数 $y=a(x-p)^2$ のグラフを導入する授業である。教科書では、上記の式が最初に提示され、 x に値を代入してグラフが平行移動した形であることを確かめている。本授業では、ICT (grapes) を用いて放物線 $y=x^2+bx+c$ のグラフを平行移動させ、頂点が x 軸に接するときの、 b と c の値から、 $y=(x-p)^2$ という式に変形できることを帰納的に発見させるものであった。結果的に、 $y=(x-p)^2$ の p の符号とグラフが移動する向きを間違える生徒がいなかったとのことである。これは、生徒が自ら発見したことで、内容の定着が図られた結果だと考えられるだろう。

○グループ協議

以下の 2 点について、グループに分かれて協議が行われた。

- ①ICT を利用しているか. していない場合は、その理由と改善策.
- ②数学的活動を重視した授業での ICT の必要性、メリット、デメリット.

①について

パワーポイント等を作成し、毎回の授業で使用しているという先生は少なかった。研修参加者の中では、授業内容から必要であると判断した場合や、研究授業などの理由で使われている場合が多いようである。

準備等に不安を感じている先生も多く、校内での研修などが必要であるという意見が出された。

②について

ICT を用いるメリットとして、グラフなどを提示する際、正確な形を提示できることや、関数など変化するものには効果的であることが挙げられた。また、データの蓄積、再現ができるなど、ICT の効果的な使い方についても触れられた。

さらに、生徒に見せるだけでなく、生徒に操作させることによる効果も期待できるという意見も出た。

デメリットとして、まず準備に手間がかかることや環境設備に左右されることなど、授業外に関する意見が出た。

また、パワーポイントを用いた際に考えている過程が板書として残らないこと、ICT に頼りすぎると生徒との対話が減ることなど、授業を行うにあたっての懸念事項も挙げられた。メリットの 1 つである関数などを提示できることについては、紙とペンを用いて頭の中でイメージすることも大事なのではないか(見せすぎることにも問題があるのではないか)という意見もあった。

○全体協議

グループ協議で出された意見をもとに、全体での協議が行われた。以下のような意見が出た。

- ・黒板に直接投影してチョークで書き込んでも、文字ははっきり見える。準備に時間もかからないので、便利である。
- ・生徒の活動として、説明を聞く、ノートを取る、パソコンを触る、というそれぞれの動作は、それぞれ分けられるべきである。
- ・1 から作るだけでなく、探してきて使うという、「データを共有するという感覚」が大事である。

グループ協議のテーマ②に関連して、授業の中でどれくらい数学的活動(試行錯誤)を行っているのかという話題になった。中学校、高等学校の先生方は、様々な形で生徒に試行錯誤させていることが、改めてわかった。

○指導助言

都立田園調布高等学校長 吉田 亘

(都数研副会長兼事務局長)

数学教師には、ICT を自らが使いながら、生徒に使えるものはないか研究していく姿勢が重要である。今後、ICT の使い勝手は向上していく。また、生徒は教師が ICT を使えて当たり前だと思っている。そのような状況の中で、授業のスタイルは変化していくであろう。

大学などでは、事前に映像で講義を行い、実際の授業では活動だけ、という実践もあり、成果が出始めている。教師は、ICT に限らずいろいろな手段を知ったうえで、生徒との関係の中で選択し、活動を通して生徒に気付きを与えていかなければならない。

文責 編集部 坂井田博史(東村山高)

研究部だより

【数学 I 分科会】

①取り組みとテーマ

昨年度より「空間図形」を大きなテーマとして複数年にわたって研究をしている。昨年度は小テーマとして、「三角比における空間図形」と設定した。

今年度の小テーマは未定である。

②活動日程

第 1 回 4 月 24 日(木) 18:30～ 2.5 時間程度 戸山高

第 2 回以降の開催日程は未定。

※日程、会場は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③平成26年度の世話人 都戸山高 田中 啓之(予定)

【学習指導法分科会】

①取り組みとテーマ

今年度も「高校生に興味・関心を抱かせる数学の教材集づくり」というテーマで研究を続け、教材集を作り、第96回全国算数・数学教育研究(米子)大会にて研究発表を行う。

昨年度は、5 年分の教材集を合冊で印刷・製本したが、今年度も新たに教材集を作成できればと考えている。

②活動日程

第 1 回 4 月 12 日(土) 14:00～ 3 時間程度 戸山高

第 2 回 5 月 17 日(土) 14:00～ 3 時間程度 戸山高

第 3 回 6 月 7 日(土) 14:00～ 3 時間程度 戸山高

第 4 回 7 月 5 日(土) 14:00～ 3 時間程度 戸山高

第 5 回以降は未定。都数研ホームページに掲載する。

③平成26年度の世話人 都戸山高 荻野大吾
都西高 村形政信

【コンピュータ分科会】

①取り組みとテーマ

・コンピュータ分科会のサイトを活用した教材の共有、教材の整理

- ・ ICT を活用した授業研究
- ・ GRAPES や GeoGebra 等のコンピュータソフトウェアの活用・教材作成
- ・ デジタル教科書の研究
- ・ ICT 講習会の開催

②活動日程

第 1 回 4 月 26 日(土) 14:00～ 3 時間程度 保谷高

第 2 回 5 月 10 日(土) 14:00～ 3 時間程度 保谷高

第 3 回 5 月 27 日(火) 16:30～ 3 時間程度 農芸高

第 4 回 8 月中～下旬 14:00～ 3 時間程度 保谷高

※その後は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③平成26年度の世話人 都保谷高 宇佐美俊哉
都東村山高 鮫島 央

【大学入試分科会】

①取り組みとテーマ

関東近辺の大学を中心に入試問題の研究を行っている。

毎月 1 回定例会を開き、各自が分担した大学入試問題の検討結果を報告し、どのような解法が考えられるか、その問題の背景にどのような定理・公式・理論が広がっているか、日々の授業にフィードバックできることはないか等の研究協議を行っている。

また、1 年間の研究成果をまとめ、研究集録に「2014 年度大学入試問題の研究」を掲載する。

一人ですべての大学の入試問題を解き、研究するのは困難であるが、仲間とともに研究することにより、多くの入試問題に触れることができる。そのため、大学入試に対応する力が飛躍的に向上する分科会である。

②活動日程

第 1 回 4 月 25 日(金) 18:00～2.5 時間程度 小石川中等

第 2 回 5 月 23 日(金) 18:00～2.5 時間程度 小石川中等

第 3 回 6 月 27 日(金) 18:00～2.5 時間程度 小石川中等

※その後は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③平成26年度の世話人 都西高 鈴木智秀
都小石川中等 前田 徹

【定通分科会】

①取り組みとテーマ

秋頃に、都立園芸高校 吉良光一教諭による研究授業を実施する。その指導案を秋までに研究協議する。

さらに、1 月に行われる定時制通信制教育指導体験発表会において、研究成果を発表する。

②活動日程

第 1 回 5 月 28 日(水) 19:00～ 3 時間程度 広尾高

第 2 回 8 月 29 日(金) 18:30～ 3 時間程度 園芸高

※その後は決定次第、都数研ホームページに掲載する。

③平成26年度の世話人 都三商 川澄秀一
都一橋高 浅井嘉信

文責 編集部 廣田憲一(青山高)

教育課程特別委員会だより

委員長 竹村 恭一 (板橋有徳高・校長)

9名の委員で研究・協議を重ねてきた経過を報告する。

I 経過報告 (第9回～第13回)

第9回：平成26年1月17日(金) 16:00～20:00

会場：東京都立戸山高等学校 生徒相談室

- (1) 学習指導要領研究
指導要領解説 数学編 p45～51 数学Ⅲ
- (2) アンケート集計結果検討
- (3) 全国算数・数学研究(鳥取)大会に向けて
- (4) 都数研での発表計画 7月4日(金)

第10回：平成26年2月18日(火) 16:00～20:00

会場：東京都立戸山高等学校 生徒相談室

- (1) 学習指導要領研究
数学Ⅲの「1. 性格」と「2. 目標」について
- (2) 都数研での研究発表について
教育課程特別委員会の発表機会を設けてもらう。
内容 ①アンケート結果と分析
②課題について

第11回：平成26年3月27日(木) 16:00～17:30

会場：東京都立戸山高等学校 生徒相談室

- (1) 学習指導要領研究
数学Ⅲ「極限」について
- (2) 全国算数・数学研究(鳥取)大会に向けて
8月1日高等学校分科会で発表する。
発表スライドの検討
資料「数学教育の危機」(1994年7月2日)
- (3) 都数研での発表予定 7月4日(金)に実施

第12回：平成26年4月16日(水) 16:00～18:00

会場：東京都立戸山高等学校 生徒相談室

- (1) 学習指導要領研究
解説p66～68 第3章 各教科にわたる指導計画
- (2) 全国算数・数学研究(鳥取)大会に向けて

第13回：平成26年5月15日(木) 16:00～18:00

会場：東京都立戸山高等学校 生徒相談室

- (1) 学習指導要領研究
解説p69～71 第3節 総則に関連する事項
- (2) 全国算数・数学研究(鳥取)大会に向けて
発表原稿の検討

II 今後の取り組み

- 1 都数研での発表 7月4日(金)
- 2 全国算数・数学研究(鳥取)大会発表 8月1日(金)
- 3 文部科学省への提言
秋以降、視学官への報告の場を設ける。

東京都教職員研修センターだより

研修部専門教育向上課 指導主事 岡田光章

東京都教職員研修センターでは、教科等や教育課題への対応など、教員として専門性を高める研修・研究を充実させています。今回は「教科等・教育課題研修」における「専門性向上研修」として、今年度実施する研修を御紹介します。

【算数ⅠA】(対象:小学校・特別支援学校)

「算数的活動を重視した授業づくり」

※算数的活動を通して、数量や図形の意味について実感をもってとらえたり、思考力、判断力、表現力等を高めたりできる授業づくりについて学ぶ。

【数学ⅠB】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校)

「数学的活動を重視した授業づくり」

※数学的活動について理解を深め、数学的活動を重視した授業づくりについて学ぶ。

【算数ⅡA-1, 2】(対象:小学校・特別支援学校)

「数学的な考え方を生かした算数科の授業」

※数学的な考え方について理解を深め、問題解決型学習の授業づくりについて学ぶ。

【数学ⅡB】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校 中学部・高等部)

「生徒が学ぶ楽しさや意義を実感する授業づくり」

※生徒の多様な考え方を生かし、数学を学ぶことの楽しさや意義を実感させる授業づくりについて学ぶ。

【算数・数学ⅡC】(対象:小学校・中学校・特別支援学校)

「算数・数学科における理科との関連を踏まえた指導」

※理数教育充実のため、算数・数学科と理科との関連について理解を深める。

【算数Ⅲ】(対象:小学校・特別支援学校)

「授業改善の視点と算数の指導の充実」

※授業改善の視点を学び、指導内容や指導方法についての理解を深め、校内等で他の教員に普及・還元する力を身に付ける。

【数学Ⅰ・Ⅱ】(対象:中学校・高等学校・特別支援学校 中学部・高等部)

「高等学校数学に関する授業研究と講演会」

※学習指導要領に関する理解を深めるとともに、多様な生徒の実態に対応した授業展開や指導の在り方・工夫についての知見を高め、活用する力を身に付ける。

研修では、課題に対する協議や演習を中心として、多様な視点から学ぶことを重視するとともに、大学の教授等を講師に招き、専門的な知識を深めたり、参考となる授業を参観し実践力を高めたりすることをねらいとしています。

編集部だより

平成26年度の編集部の活動予定を紹介します。

①研究集録51号の発行

平成27年3月発行を目指して、取り組んでいます。また、教育課程特別委員会とも連携して、新学習指導要領に関する研究も掲載する予定です。

今年度新規事業として、2年前から検討している研究集録のバックナンバーについても、事務局と連携して都数研のウェブページに掲載するための準備を進めています。

②デジタル会報の発行

昨年度より、10年間途絶えていた会報をデジタル会報として復活いたしました。事務局と連携して、都数研のウェブページから閲覧ができるようにしています。今年度は10年前までの会報もデジタル化して都数研ウェブページに掲載する準備を始めています。

③研究集録に掲載する投稿論文募集

詳細は未定ですが、夏休み前までに、投稿論文の詳細を都数研のウェブページにて連絡します。

投稿論文は、「数学教育研究を通して高等学校の数学教育の発展を図り、社会の発展に貢献する」という東京都高等学校数学教育研究会の設立趣旨にかなった、実践に役立つ各分科会での研究、交流、協議の成果をまとめたものとします。また、最近の数学教育や生徒の実態についての私見や情報交換も含む内容のものとしてします。

なお、提出された投稿論文は、本研究会にて選考させていただきます。

④勉強会の実施

昨年度2月に、編集部主催の勉強会を都立立川高校にて実施しました。

3名の編集部員による発表と東京都教職員研修センター教授の佐藤公作先生から講演をいただきました。

勉強会の記録として、小冊子作成(紙上発表を含め4名)しました。

今年度も2月頃に実施する予定です。

編集部勉強会の記録

授業力向上と資質向上のために

平成26年2月8日実施

東京都高等学校数学教育研究会 編集部

⑤編集部へのお誘い

今年も編集部への勧誘を積極的に進めてまいります。現在、編集部員は21名です。

華々しい研究活動と違い、各分科会や研究協議での講演や発表などの様々な活動をまとめたり、原稿を依頼したり、集めたりと、地道な活動です。しかし、編集の企画、計画にも関わりながら、研究会の活動全体を知る機会にもなると思います。是非、奮って、ご参加ください。

文責 編集部 肥田成悦(立川高)

事務局だより

都数研ウェブページへの会員ページについて

都数研のウェブページのカテゴリーの中に、「会員へのお知らせ」があります。この「会員へのお知らせ」は、会員となられた方に後日、事務局から会員ページへの「ログイン ID」と「パスワード」がお知らせされます。

この「会員へのお知らせ」には、都数研宿泊研修会の写真、各研究会の案内や大会の案内文等が多数掲載されています。

また、研究協議会の報告、各研究会や特別委員会、部会等の報告に加えて、最近発行された都数研の研究集録も閲覧することができます。

文責 事務局 吉崎健太(立川高)



カテゴリー

その他

ニュース・イベント

会員へのお知らせ

活動報告

会員ページ

What's New

- 平成26年5月24日(土) 平成26年度 都数研総会・研究発表会のお知らせ (PDF)
- 平成26年3月18日(火) 第3回 常任理事会の報告 (PDF)
- 研究集録(第50号)PDF版をアップしました
- 平成26年2月1日(土)~2日(日) 研修&懇親旅行のお知らせ (PDF)
- 平成25年10月17日(木) 第3回 編集部編集会議の報告 (PDF)
- 平成25年10月29日(火) 第2回 常任理事会の報告 (PDF)
- 平成25年9月17日(火) 連携研修特別委員会研究協議会の報告 (PDF)

指導部だより

指導部高等学校教育指導課 指導主事 横田雅博

中央教育審議会の審議において、高校数学に関係するものとして、2点注目していることがあります。

1点目は「高大接続・大学入学者選抜の改善」に関すること、2点目は「高等学校教育の質の確保・向上」に関することです。

1点目については、3月に審議経過報告がなされました。その中では、これからの時代に必要とされる力を育成するため、大学入学者選抜を改善して、生徒が意欲をもって主体的に学習に取り組むことを後押しすべきであるとしています。具体的には、一般入試・推薦入試・AO入試の区分を見直し、多面的・総合的に評価する総合型選抜（いわゆる、「達成度テスト（発展レベル・基礎レベル）」（仮称）の導入）へ抜本的に改革することがイメージとして作り上げられています。

達成度テストにおいて「基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を測る問題」について検討されている点は、高校数学の学習内容や活動に大に関わる事項と考えます。ただし、3月の審議経過報告には、具体策の実現可能性等の検討が引き続き必要としているところですので、皆さんにはその動向に注視していただきたいと思います。

2点目については、「高校生の学力・学習状況については、特に学力中位層の学習時間の減少とともに、基礎学力の不足や学習意欲の面で課題があり、一部の高校においては、小・中学校での学習内容が十分に身に付いていない者も少なからず見られるなど、学び直しへのニーズが非常に高まっている」として、3月に審議まとめが公表されています。

東京都では、平成25年度研究開発委員会において、「学力スタンダード数学（学び直し）」の開発を数学会で行い、義務教育段階の内容と高等学校の内容の関連性を体系的に見直し、高等学校での学習に必要な義務教育段階の内容の重点ポイントをまとめました。

そして、平成26年度研究開発委員会では、テーマを「個々の能力を最大限に伸ばすための指導方法及び教材開発」とし、その方向性として「社会生活を行っていく上で必要な言語能力や数理能力、読み書き計算等、高等学校卒業時に身に付けさせるべき学習項目を明らかにし、学び直しスタンダード（平成26年度版）を完成させるとともに、学習の基盤となる基礎的・基本的な知識・技能等を確実に定着させるための教材を開発」としました。

具体的には、昨年度の学び直しの項目について、つまづきとなる部分を明確にしてその原因などを分析し、このつまづきを解消することが社会生活を送るためのどのような力が身に付くのか、という視点で指導方法を開発し、指導資料集を作成することになります。

研究開発委員会が取り組んでいるテーマは、中央教育審議会で審議されている「高校教育の質の確保・向上」の「全ての生徒が共通に身に付けるべき資質・能力『コア』」の議論と重なる部分であり、特に重要視されているものです。

都数研の皆様にも、研究の一つの視点として考えていただき、御教示頂けたらと考えています。

会報発行後に連絡をいただきましたが、お知らせすべき内容が含まれているため、追加で掲載することになりました。（編集部）